

## II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

### 2 社会

#### (1) 正答率

問題	配点	正答		一部正答		誤答		無答		通過率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{(人数} \times \text{配点)}} (\%)$	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問1	3	344	86.0	1	0.3	53	13.3	2	0.5	86.2
	問2	3	220	55.0	0	0.0	180	45.0	0	0.0	55.0
	問3	5	270	67.5	65	16.3	52	13.0	13	3.3	76.3
	問4	3	338	84.5	6	1.5	55	13.8	1	0.3	85.2
2	問1	3	206	51.5	0	0.0	193	48.3	1	0.3	51.5
	問2	3	174	43.5	5	1.3	164	41.0	57	14.3	44.3
	問3	3	274	68.5	0	0.0	125	31.3	1	0.3	68.5
	問4	5	223	55.8	148	37.0	17	4.3	12	3.0	75.8
	問5	2	259	64.8	0	0.0	141	35.3	0	0.0	64.8
3	問1	3	239	59.8	0	0.0	159	39.8	2	0.5	59.8
	問2	2	240	60.0	0	0.0	158	39.5	2	0.5	60.0
	問3	5	205	51.3	27	6.8	113	28.3	55	13.8	54.9
	問4	3	213	53.3	0	0.0	186	46.5	1	0.3	53.3
	問5	3	270	67.5	6	1.5	80	20.0	44	11.0	68.5
4	問1(1)	3	333	83.3	0	0.0	67	16.8	0	0.0	83.3
	問1(2)	5	155	38.8	174	43.5	53	13.3	18	4.5	61.1
	問2	3	272	68.0	0	0.0	128	32.0	0	0.0	68.0
	問3	3	215	53.8	1	0.3	184	46.0	0	0.0	54.0
	問4	3	198	49.5	0	0.0	186	46.5	16	4.0	49.5
5	問1	3	375	93.8	1	0.3	24	6.0	0	0.0	94.0
	問2	3	86	21.5	27	6.8	287	71.8	0	0.0	24.8
	問3	3	254	63.5	0	0.0	145	36.3	1	0.3	63.5
	問4	5	223	55.8	89	22.3	42	10.5	46	11.5	68.3
	問5	3	290	72.5	0	0.0	78	19.5	32	8.0	72.5
	問6	3	223	55.8	1	0.3	176	44.0	0	0.0	56.0
	問7	3	334	83.5	1	0.3	65	16.3	0	0.0	83.8
6	問1	3	214	53.5	0	0.0	182	45.5	4	1.0	53.5
	問2	3	355	88.8	1	0.3	43	10.8	1	0.3	89.0
	問3	3	130	32.5	88	22.0	163	40.8	19	4.8	42.7
	問4	5	133	33.3	210	52.5	39	9.8	18	4.5	63.9

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

#### (2) 問題の内容

- 1 世界地図に示した国や地域について調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。
- 問1 三大洋のうち、ポルトガルが面している海洋の名称を書く問題である。
- 問2 地図中のいずれかの地域の人々の生活の様子をまとめたカードと、地図中の地域の組み合わせとして最も適切なものを選ぶ問題である。
- 問3 韓国とベトナムにおける現地にある日本の企業数の推移を示したグラフから、ベトナムにある日本の企業数が韓国より増えている理由を、月額賃金と15歳～49歳の人口の割合を示した表から読み取って書く問題である。
- 問4 アメリカ合衆国、ポルトガル、スイス、日本の1990年と2020年における1人あたりのGDPを示したグラフから読み取れる内容を述べた文として正しいものをすべて選ぶ問題である。

- 2 日本のある地域の自然環境や産業について調べる学習の場面を想定した、地理的分野の問題である。
- 問1 出雲市、高松市、新宮市の気温と降水量を示したグラフを読み取り、各グラフと都市の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問2 近畿地方の産業についてのまとめを読み、地図1とまとめの中の空欄にあてはまる山地の名称を書く問題である。
- 問3 2021年の東京都中央卸売市場における、群馬県と高知県の、なすの月別入荷量を示したグラフと、なすの栽培の特色のまとめを読み取り、高知県にあたる月別入荷量と栽培の特色の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問4 日本の交通・通信の特色について、徳島県を事例に学習する授業での先生と生徒の会話文を読み、会話文の空欄にあてはまる交通網の整備による地域の変化と地域の課題について、それぞれ書く問題である。
- 問5 徳島市を野外観察した記録とその周辺の地形図を見て、記録と地形図が示す地点の組み合わせを選ぶ問題である。
- 3 近世までの日本の歴史に関する資料を調べる学習の場面を想定した、歴史的分野の問題である。
- 問1 奈良時代の文化について述べた文と、奈良時代の代表的な文化財の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問2 平安時代の政治の様子について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問3 鎌倉時代の武家政治の展開について、地頭と領家の争いが読み取れる資料から、ここでの争いがどのように解決されたのかを「地頭」という語を用いて書く問題である。
- 問4 室町時代と同時期に起こった世界のできごとを述べた文として、その正誤の組み合わせが正しいものを選ぶ問題である。
- 問5 江戸時代に発展した学問に関するまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる人物名を書く問題である。
- 4 近現代の年表を基にした、歴史的分野の問題である。
- 問1 (1) 開国によって受けた影響について学習する先生と生徒の会話文を読み、幕末における日本の主要な輸出品を選ぶ問題である。
- (2) 開国後の貿易について、会話文の空欄にあてはまる人々の生活が受けた影響を、幕末の物価の変化を示したグラフと関連付けて書く問題である。
- 問2 不平等条約の改正に関するできごとの流れを整理した図から、前後のつながりを基にあてはまるできごとの組み合わせを選ぶ問題である。
- 問3 第一次世界大戦の始まりから第二次世界大戦の始まりまでの日本の政治や経済について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問4 冷戦の終結に関するまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語を書く問題である。
- 5 学習課題を立て、それらを調べる学習の場面を想定した、公民的分野の問題である。
- 問1 社会権に関するまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問2 参政権について述べた文として正しいものをすべて選ぶ問題である。
- 問3 日本の司法制度について述べた文として正しいものを選ぶ問題である。
- 問4 2019年度における大阪府と鳥取県の歳入とその内訳を示したグラフから、国から地方交付税交付金が配分される目的を、「自主財源」と「格差」という語を用いて書く問題である。
- 問5 消費者の保護について、一定期間内であれば消費者側から無条件で契約を解除できる制度の名称を書く問題である。
- 問6 ある国における四つの政党の主張についてのまとめを読み、座標軸によって分類した図の中に、各政党の貿易と財政に関する主張を位置付けたときの領域を選ぶ問題である。
- 問7 国際会議に関するまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語の組み合わせを選ぶ問題である。
- 6 職業とその内容をまとめる学習の場面を想定した、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の総合的な問題である。
- 問1 日本と外国との関係に関するできごとについて述べた文を、年代の古い順に並べ替える問題である。

- 問2 株式会社の仕組みについてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる語の組み合わせを選ぶ問題である。
- 問3 アメリカ合衆国の産業についてのまとめを読み、まとめの中の空欄にあてはまる地域の名称を書き、この地域の地図上の位置を選ぶ問題である。
- 問4 鹿児島県の畜産業の取組についてまとめたレポートを読み、鹿児島県の取組の成果を示すグラフを選び、選んだグラフ等から読み取れることをレポートの中の空欄に書く問題である。

### (3) 所見・解説

1 世界地図に示した国や地域について調べる学習の場面を想定し、世界の地域構成や地域的特色について理解しているかをみようとした。

問1 三大洋のうち、ポルトガルが面している海洋は「大西洋」である。

問2 **カードⅠ**は、標高に応じたじゃがいもの栽培やアルパカの毛でつくった衣服で高地の寒さなどを防ぐことなどから、地図中の**A**の地域となる。**カードⅡ**は、カカオが輸出用に生産されていることなどから、**C**の地域となる。これらにより、正答は**A**となる。誤答には、**I**を選択したものが多く、**カードⅡ**にある「植民地」の記述と、地図中の**D**の地域がヨーロッパの対岸にあることを単に捉えたためと考えられる。

問3 ベトナムにある日本の企業数が韓国より増えている理由については、表中①から、ベトナムは韓国より月額賃金が安いことが読み取れ、表中②から、ベトナムは韓国より総人口に占める15歳～49歳の人口の割合が高いことが読み取れる。よって、安い賃金で労働者を雇えるベトナムに進出する日本の企業が増えていることがわかる。同じアジア州に属する国でも地域的特色が異なることを、日本とも比べながら理解しておきたい。

問4 **グラフ2**から読み取れる内容を述べた文として正しいものは、**I**、**ウ**となる。**A**は、1990年において、1人あたりのGDPが2万ドルを超えているのは、4か国のうちアメリカ、スイス、日本の3か国であるため、誤りと判断できる。**エ**は、日本における、1990年の1人あたりのGDPは約2万5000ドルで、2020年の1人あたりのGDP約4万ドルの2分の1以下にはならず、誤りと判断できる。**オ**は、4か国のうち、1990年の1人あたりのGDPと2020年の1人あたりのGDPとの差が最も大きいのはスイスであり、誤りと判断できる。

2 日本のある地域の自然環境や産業について調べる学習の場面を想定し、日本の諸地域や地域的特色、地域調査の手法について理解しているかをみようとした。

問1 日本の気候区分において、出雲市は日本海側の気候、高松市は瀬戸内の気候（内陸の気候）、新宮市は太平洋側の気候にそれぞれ属している。日本海側の気候の特色は、冬の降水量が多いことから、**Ⅲ**が出雲市となる。瀬戸内の気候の特色は、年間をとおして温暖で降水量が少ないことから、**I**が高松市となる。太平洋側の気候の特色は、冬に降水量が少なく、夏に降水量が多い。さらに近畿地方の南部は、暖流や夏の季節風の影響で年間降水量が特に多いことから、**Ⅱ**が新宮市となる。これらにより、正答は**エ**となる。誤答には、**ウ**を選択したものが多く、出雲市と新宮市の冬の降水量が同程度だったことで判断に迷ったためと考えられる。

問2 **地図1**から、近畿地方の南部に示された山地であること、また、**まとめ1**の文章から、豊かな森林が広がり、現在でも高い品質の木材が生産されていることなどを読み取ると、空欄**P**にあてはまる語は「紀伊（山地）」である。

問3 **グラフ1**から、**W**は秋から春にかけての時期、**X**は夏から秋にかけての時期に、それぞれなすの入荷量が多いことが読み取れる。また、**まとめ2**から、大消費地である都市に近い条件を生かし、新鮮なうちに出荷するのは、近郊農業の特色であることから、空欄**Y**には群馬県があてはまることが読み取れる。さらに、温暖な気候を生かし、出荷時期を早める工夫をするのは、促成栽培の特色であることから、空欄**Z**には高知県があてはまる。これらにより、秋から春にかけて比較的温暖な気候を生かした促成栽培を行っている**W**と**Z**が高知県と判断でき、正答は**I**となる。出荷時期に合わせて作物の生育を調節する地域が見られるのが、日本の農業の特色である。ここでは、近郊農業や促成栽培の用語がなくても、特色を理解できるようにしておきたい。

問4 本州と四国の間では、三つの本州四国連絡橋の開通により、陸上交通網の整備が進み、人や物のつながりが深まった。**グラフ2**から、1998年に明石海峡大橋が開通したことで、徳島県と関西方面を結ぶ「フェリーと旅客船の輸送人数が減っている（空欄**Q**）」ことが読み取れる。以降、高速バスなど

を利用して行き来する人が多くなり、表中の1999年以降、徳島県の年間商品販売額が少しずつ低くなっている傾向から、徳島県から買い物などで「多くの人が大都市に行くようになった（空欄R）」と考えられ、交通網の整備により地方の消費が落ち込む課題が生じていることが分かる。交通網の整備による地域間の結び付きは、移動時間を縮める一方で、地域の課題となりうることも学習しておきたい。

問5 野外観察の記録の①は、駅とロープウェイのりばとの間であることから、地図2中のA地点であり、②は、山に囲まれた高台であることから、地図2中のC地点であることが読み取れる。これらにより、正答はアとなる。地理的分野では、地形図も含めた地図を有効に活用して、地域で見られる景観や特色などの必要な情報を的確に読み取る地理的技能を身に付けておきたい。

3 近世までの日本の歴史に関する資料を調べる学習の場面を想定し、世界の歴史を背景とした近世までの日本の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 Iの奈良時代の文化について述べた文はbであり、奈良時代の代表的な文化財は、資料1の「興福寺の阿修羅像」であることから、正答はウとなる。aは古墳時代の文化について述べた文で、資料2の「武人埴輪」は古墳時代の文化財である。

問2 IIの平安時代における政治の様子を述べた文はエである。アは江戸時代、イは鎌倉時代、ウは飛鳥時代のできごとである。

問3 IIIの鎌倉時代における、地頭と領家（荘園の領主）の土地をめぐる争いが資料3から読み取れ、ここでは解決として「土地を地頭と領家で分け合った」ことがわかる。中学校での学習においては、資料3が下地中分を示した絵図であり、地頭分と領家分がほぼ半分に分けられていることを読み取り、地頭が荘園の領主と同じぐらい強い力を持つようになったことを理解しておきたい。

問4 Xの日明貿易（勘合貿易）を述べた文と、Zの朝鮮半島で李成桂が朝鮮国を建てたことを述べた文は、それぞれ日本ではIVの室町時代にあたる。Yのロシアの使節ラクスマンが通商を求めたことを述べた文は、日本では江戸時代にあたる。よって、正答はイとなる。日本の政治や文化に影響を与えた諸外国の歴史は、日本の各時代の特色と関連付けて理解しておきたい。

問5 Vの江戸時代において、まとめの文章から、内容を読み取ることにより、空欄Pにあてはまる人物は「伊能忠敬」となる。

4 近現代の日本と世界の歴史について理解しているかをみようとした。

問1 (1) 開国して貿易が始まると、繭から作られる「生糸」が日本の主要な輸出品となった。

(2) 開国後の貿易は、国内の産業に大きな影響を与え、人々の生活にも影響をおよぼした。会話文と資料2から、生活に必要な品物である米やしょうゆの「物価が上昇している」ことが読み取れ、その影響によって、「人々の生活が苦しくなった」と考えられる。正答に至らなかったものには、人々の生活への影響について言及していなかったものがみられた。資料から情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けておきたい。

問2 ステップチャートにまとめた不平等条約の改正に関するできごとは、日本が欧米諸国との対等な外交関係を樹立する過程の代表的なものである。図中の空欄Xは、ある事件への対応から不平等条約の改正を求める声が高まり、それが大日本帝国憲法が公布される前であることから、「ノルマントン号事件」となる。図中の空欄Yは、日清戦争の直前に陸奥宗光外相が領事裁判権の撤廃に成功することから、「日英通商航海（条約）」となる。これらにより、正答はウとなる。歴史的分野では、情報を効果的に収集し、時系列に沿った整理を読み取ることで、年代を暗記していなくても正答を導くことができる。

問3 第一次世界大戦のはじまりから第二次世界大戦のはじまりまでの日本の政治や経済の様子について述べた文はアである。イは第一次世界大戦よりも前、ウは第二次世界大戦後の高度経済成長期、エは高度経済成長が終わった後である。

問4 まとめ1の文章から、内容を読み取ることにより、空欄Zにあてはまる語は「マルタ（島・会談）」となる。戦後の国際社会については、公民的分野との関わりを踏まえた学習が求められる。

5 公民的分野の学習で、いくつかの学習課題について調べる学習の場面を想定し、日本の政治や経済、国際社会について理解しているかをみようとした。

問1 まとめ1の文章から、内容を読み取ることにより、空欄Iにあてはまる語は「生存権」、空欄IIにあ

てはまる語は「ワーク・ライフ・バランス」となる。これらにより、正答はイとなる。

- 問2 参政権について述べた文として正しいものは、ア、イ、オである。ウは、都道府県知事に立候補する被選挙権は、満30歳以上の国民に認められているため、誤りである。エは、憲法の改正において、衆議院と参議院それぞれの総議員の3分の2以上の賛成で、国会がこれを発議し、その後改正案について、国民による国民投票を行うため、誤りである。
- 問3 日本の司法制度について述べた文として正しいものはウである。アは、一つの事件について、3回まで裁判を受けられる三審制をとっており、第一審の判決が不服な場合は第二審の裁判所に控訴することができるため、誤りである。イは、被告人においては、有罪の判決を受けるまでは無罪とみなされるため、誤りである。エは、一部の事件で、被害者などが希望に応じて被告人や証人に質問できる、被害者参加制度などが設けられているため、誤りである。
- 問4 大阪府と鳥取県の歳入の内訳を示したグラフから、二つの府県の歳入のうち、自主財源である地方税の割合が異なり、大阪府と鳥取県の財政の格差をおさえるために国から配分される依存財源である地方交付税交付金などで補っていることが読み取れる。つまり、地方交付税交付金が配分される目的は、「自主財源でまかなえない分を補って、財政の格差をおさえるため」である。正答に至らなかったものには、自主財源という語を適切に使用できていないものが多くみられた。
- 問5 消費者を保護するさまざまな仕組みのうち、訪問販売や電話勧誘などで商品を購入した場合に、一定期間内であれば消費者側から無条件で契約を解除できるのは「クーリング・オフ（制度）」である。
- 問6 社会保障と財政の関係については、社会保障を充実させる代わりに税金などの国民の負担を大きくする高福祉高負担の「大きな政府」と、社会保障をしばりこむ代わりに国民の負担を軽くする低福祉低負担の「小さな政府」に分けられる。貿易については、外国との貿易を行う際に、政府が輸入量を制限したり、輸入品に多額の関税をかけたりして自国の産業の保護を目的とする「保護貿易」と、関税等の、自由な輸出入をさまたげる仕組みをできるだけ減らし、貿易を活性化させる「自由貿易」に分けられる。これらの理解を踏まえ、まとめ2の四つの政党の主張の特徴を読み取り、図の座標軸による政党の考え方の分類のうち、【C党】の考え方が位置する領域を選ぶ。【C党】は「行政や福祉の手厚いサービスを提供」などから「大きな政府」、「外国の商品にかかっている税金を減らす」から「自由貿易」と判断でき、これらにより正答はアとなる。なお、【A党】は小さな政府・保護貿易が読み取れることからウと判断でき、【B党】は小さな政府、自由貿易が読み取れることからエと判断でき、【D党】は大きな政府、保護貿易が読み取れることからイと判断できる。
- 問7 まとめ3の文章から、必要な情報を読み取ることにより、空欄Xにあてはまる語は「主要国首脳会議（G7）」、空欄Yにあてはまる語は「広島」となる。これらにより、正答はウとなる。

6 職場を訪問して、働いている人から聞いた内容の一部をまとめるグループ学習の場面を想定し、課題を探究する活動などを通して、各分野を総合的に理解しているかをみようとした。

- 問1 正答はウ→イ→ア→エとなる。ウは、天正遣欧使節のことで、ヨーロッパ人の来航による日本の変化がみられる安土桃山時代のできごとである。イは、徳川家康が大名や豪商に、東南アジアへの渡航を許可する朱印状を発行している、江戸時代のできごとで、ウよりも後である。アは、憲法をつくる必要性から伊藤博文がヨーロッパへ調査に行くことであり、明治時代前半における立憲制国家の成立の時期で、イよりも後である。エは、国際連盟設立時に国際社会で尽力した新渡戸稲造についての内容であり、日本では大正時代のできごとで、アよりも後である。各時代における日本と外国との関係の特色を理解していれば正答を導くことができる。
- 問2 まとめ1の文章から、内容を読み取ることにより、空欄Xにあてはまる語は「株主総会」、空欄Yにあてはまる語は「配当」となる。これらにより、正答はエとなる。
- 問3 まとめ2の文章から、サンフランシスコの南に位置する先端技術産業の拠点となる地域は「シリコンバレー（空欄P）」となる。また、シリコンバレーの位置は、地図中のアである。
- 問4 レポートと資料の内容から、グラフ2には鹿児島県の取組の成果を示すエがあてはまる。また、資料と選んだエのグラフから、取組とその成果について、「新たな輸出国に対する広報をしたり、海外の消費者に動画で紹介したりすることで、鹿児島県の黒豚肉の輸出量が増えている（空欄A）」ことが読み取れる。生徒自らが課題を設定して探究し、その解決に向けて、多面的・多角的に考察、構想した自分の考えの過程や結果を説明、論述する学習は、中学校社会科のまとめとして位置付けられている。